

バックス陣がルーキー・王の先制トライを含む3トライ

# 白星発進

関西大学Aリーグの第1節が7日、近鉄花園2で行われ、今季限りで勇退を表明している坂田好弘監督率いる大体大は、京産大を26-12で退けて開幕戦を白星で飾った。大体大の第2節は14日午後2時から同会場で開催され、摂南大と対戦する。

第1節：大体大26—12京産大



前半7分、先制トライを決めるCTB・王授榮【上】試合前、緊張の面持ちで選手たちを見守る坂田監督



大体大坂田監督のラストシーズンが幕を開け、「ヘラクレス軍団」が秋風強く舞う花園のピッチに立った。昨年よりも一回りサイズアップし、関西1、2を争うほどに成長した期待の重量FW陣だったが、指揮官を満足させる活躍は出来なかった。それならばと、バックス陣が奮起した。

大体大はルーキーCTB王授榮朝明高出、体育1年の先制トライなど4トライ中3トライをバックスで奪って、ライバル・京産大を7・5・19・7の26・12で破り開幕白星発進した。「春からスクラムを強化してきて、それで圧倒できなかった」と坂田監督。「相手は後半へばつてようやくFWが動けた。（開幕戦を）よく勝てた」。

大体大の今季初トライはH.O.王鏡間（同3年）の弟・王授榮だった。前半7分、ゴール前中央からバックス陣でボールをつなぎ、最後はルーキーのボールを持つ右手が、京産大ゴールライン上にぐいと伸びた。「ラインが良く見えなくて、とにかく手を伸ばした」と話すベンチ入りメンバー22人中唯一の1年生。朝明高1年時以来の兄との「花園共演」で大体大今季リーグ戦初トライを奪った。

しかし、大体大はこの得点以降、生命線であるスクラム、ラインアウトからの地域獲得を京産大に消された。相手PRからアングルをうまくコントロールされ、大体大FWは足止めを食らった。

「8人で組まないといけないスクラムがバラバラだった」と今季からヘッドコーチ（HC）に就任した中谷誠コーチ。「ラインアウトも起点が出来なかった」と大体大の強みが出せなかったことを悔やんだ。

それでも京産大の攻撃を「トライだけに抑えた大体大は後半、京産大独特のスクラムにFW陣が順応し始めた。FWが攻撃の起点を作り、バックスにボールを回してトライを奪う。後半19分に大学からラグビーを始めたというWTB・左手雄磨（同3年）が、ロスタイムには「使えることがわかったことが収穫」と坂田監督が話す16

5センチ、65キの小兵S.H・河口太一（同2年）がこぼれ球を見逃さずにダメ押しトライを決めた。

キッカーのFB三瀬憲二郎（同）は強風の中、4本中3本のコンバージョングールを決めてキックの安定感を見せた。

FWでは唯一、後半から出場したH.O.長崎健太郎（同3年）が23分にトライを奪って意地を見せた。大体大は京産大の攻撃を前、後半各1トライにしのいで、バックスの攻撃とFWの守備で宿敵を退けた。

「このままでは厳しい。FWがもっと前へ出ないとけない」とFWに奮起を促した坂田監督。昨年のリーグベスト15に大体大から唯一選ばれたL.O.山口浩平（同4年）はFWを相手に研究されるが、それでも粉碎できるようなスクラム、モールで押せるようにしたい。

バックス陣は試合前に主役の座を奪う意気込みで初戦に挑んだという。いつもはFWでトライを取るが、今日はバックスで取ろうと気合を入れた」と王授榮は試合後に明かした。主役の座をバックス陣に奪われたFW陣。「ヘラクレス魂」を目覚めさせるには十分な試合だった。



後半23分、トライを決めて祝ふされるH.O.長崎（中央）